



## 生命誌の広場

### テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」 ▶
- 研究について ▶
- 季刊「生命誌」 ▶
- 展示・映像 ▶
- その他 ▶

### あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

### 最新のお返事

- 2019年10月02日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日 [この夏一番元気だったものは？](#)

### 最新のご意見

- 2019年09月27日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日 [この夏一番元気だったものは？](#)

### 過去の書き込み

2019年 10月  
GO

### みなさんからのご意見

#### その他

#### よりもどす巻き戻す綱渡りに船と酒とビンズル

投稿日：2015.01.29 ニックネーム：hon no mushi

先に追加訂正を少し…重ね合わせの仕方では逆さまもダメです。そして同値関係を最初に定義する時に、元の折り紙から中一枚置いた縦方向の紙のどこの点と同値になるか書いておかないと…

そして藤枝さんの「滝とビンズル」を読んでいて、少し気になる箇所があり、引用致します

…少年時代から眼科医者となった戦前のころまで、ビンズルは謂わば寺の要員であった…参詣人は…この一人きりで隅に坐っているビンズルの前に立ち寄り、自分の病める頭や顔や足腰に触れたのち同じ彼の頭や顔や足腰を撫でさすって帰ったのである。そのころ私の開業していた農漁村の患者の三分の二はトラコーマであった。つまり…執拗な慢性伝染病の持ち主であったから、医者である私にとっては、この難病の要らざる伝播者ビンズルの存在はいつも眼ざわりであった。同時に何万回となく撫でられてテラテラな黒光りを放つ全身は、薄暗い堂内で無気味にも幼稚にも醜悪にも見えた…

…太古の彼の本来の役目は糞尿取扱い神であったという説もある。病気を排泄物によって見分けるという手続きから云っても、獣糞を日常必須の生活密着物とする風土からみても、これは真実かも知れない。何れにせよ汚いような神である。なんだか自分に似たところがあるような気がして可笑しくなることもある…

ここで、トラコーマを調べてみると「伝染性の、目の結膜疾患。病原体はクラミジア。急性結膜炎の形で始まり、まぶたの裏側に透明な粟粒大のぶつぶつができる…」、次に「結膜濾胞症」→「濾胞…動物の組織、主に内分泌腺にある多数の細胞から成る完全に閉じた袋状の構造物。卵巣・甲状腺・脳下垂体中葉に見られる」→「クラミジア…クラミジア目の微生物。人工培地で培養できず生きた細胞内でのみ増殖、濾過性で…ウイルスに似た性質を示すが、リケッチアや細菌に似た性質ももつ」…そういえば、梅毒にも似たような何かが感じ取れ…閉じた濾胞状のブツブツを形成するか、そのような場所をねぐらとして好んで繁殖するタイプの菌なのか…

…では果たして焼酎などの蒸溜酒はきくのかどうか…

#### その他

#### ゆっくりと考え直すとわかること

投稿日：2015.01.27 ニックネーム：hon no mushi

…昨日、厳密な〈クラインの壺〉の作り方を記した際、思わぬミスをしてしまいました…(やはり、間違えると恥ずかしいですね。今、文庫本で『ナチュラル・ウーマン』を読んでいるのですが、そのせいもあってか、顔が火照って花粉症と併せて鼻水と鼻をかみ過ぎてか鼻血が出やすくなっており…苛まれます)

…もう一度簡略に…

x、y平面を幅1の縦横の格子で区切って、今回はそれを正方形の折り紙と見立てて話を進めます。

作り方は何通りもあるのですが、y軸方向を縦として考え、先の一例で挙げた

### 新着情報



[10月19日生命誌オープンラボ \(19.10.01\)](#)

[10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会\(19.10.01\)](#)

[昆虫脳の標本展示が登場！\(19.10.01\)](#)

[パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始\(19.10.01\)](#)

[あくあびあ芥川とスタンプラリー開催\(19.10.01\)](#)

のは、横のx軸方向に隣り合う折り紙正方形同士の〈同値関係〉は、それぞれの折り紙を普通のやり方で重ねて（トランプで言えば、数字が見えている表を一枚も裏返しにしないで、ということ）、千枚通しで一番表に見えている紙の狙った点の上から、全ての紙を貫くようにプスッと刺し通し、それぞれの紙に開いた点をすべて同一視する、という同値関係です。

…ここまでは間違っていなかったのですが、問題は縦方向です。鏡像関係と申し上げましたが、間違いです。

正確には…

どれでもいいから縦方向に隣り合う上下2枚を選び、その下の一枚の、どこでもいいから一点に穴を開けます。それから普通の重ね方で、重ねます。そして、それらを、y軸に平行な縦の折れ線が真ん中に出来るように、重ねながら半分に折ります。そして、元の下の一枚に開けた点を狙って針でつつきます。すると穴が上下2枚で4か所開くこととなります。その際に、最初に開けた点を一つの隅として、それらの4点から長方形が形成され、元の点から一番遠い点（これは最初に選んだ2枚のうちの上の一枚にのっています）を、元の点と同一視するのです。これは同値関係になっています（お暇でありましたら、確かめてください）。

…説明が長くなりましたが、今回は以上です…



## その他

### 雑巾と細菌

投稿日：2015.01.26 ニックネーム：hon no mushi

以前、位相構造体の「クラインの壺」について、その完璧な形を作れなくても、交叉した格子を裏表張り合わせて筒状に丸めた、果物保護クッション材から粗いものを作ることができて、この粗い型が現実世界の様々な「渦」の構造に近いのではないか、特に、特殊な溶液に刺激を与えた時や粘菌が集合する時に出来る唐草模様、竜巻、循環する海流、そして人体の血液の流れに近いのではないかと申し上げましたが、それは…雑巾を絞る時の形状に近いような錯覚を抱きました。

—ここで、また登場するのが骸骨にいさんと幽霊ねえさんなのですが—

〈彼ら〉と生身の肉体をつなぐものがあるとしたら、それは「熱」なのではないか…より正確に申しますと（恒温動物では恒常的に、変温動物でも空気中の酸素を栄養素と併せて利用できる時には）「熱」を発するもの、動物の場合、元ある種の細菌だった、ミトコンドリア…（植物の場合は周りの熱環境に頼るものが大多数だと思われまのでここでは割愛します）

そして、その三者がうまく融け合って機能することで（ねえさんは複合神経系の一部として命を吹き返すことで）、一つの循環する「渦」として生きる能力を取り戻す…

雑巾を絞ると増殖した菌が水と共にこぼれていきますが、それは血流が巡る〈擬似クラインの壺〉が壊れた時に、ミトコンドリアがその網目からぼたぼた滴り落ちるような感じ…

そんな媒材なのでは、間を埋めるもの…

（先程「生きる」を変換しようとした時に「生キル」となってしまう…これじゃ生か死か分からないと思いましたが、確か数学では位相構造体を厳密に作る際に、二次元だったらX、Y方向に（どんな幅でも拡大縮小できるのでモデルとして）幅1の正方形を考えて、そこの中のある点と、特別に定義された「同値関係」で結ばれる、（隣り合ったり離れていたりする他の全ての正方形の中の）点を同一視することによって、十把ひとからげにまとめ上げ、出来たものは例えばドーナツの様な立体構造をとる…クラインの壺は、隣り合う正方形の中のベクトルや点が、一例で、X方向では同方向や同位置、かつY方向では鏡像のような逆向きだったはず…）



## 中村桂子の「ちょっと一言」

### くりかえしてほしくないのに

投稿日：2015.01.24 ニックネーム：kaipan

このところ、何気なく聞いたラジオで、なんとなく見たテレビで、石牟礼道子さんと出会って「ハッ」としています。

「苦海浄土」は、水俣病の理不尽と、汚染される前の不知火海の豊かさや、そこに暮らす人々の姿が、夢のように描かれていますね。

それは、対比しているというよりも、包み込まれる感じ。

その世界に包み込まれて、何も出来なくて、あこがれたり悔しかったりしています。

「かなしい」

それなのに、今も同じことを繰り返している。時と場所を変えて、繰り返している。  
いのちをくりかえすことが出来なくなるようなことを、くりかえしてほしくないです。

## お返事

投稿日：2015.01.27 名前：中村桂子館長

おっしゃる通りですね。「神は細部に宿る」であり、水俣も東北も沖縄も日本全国あらゆる場所でそこにいる生きものたちや暮らす人々の日常があります。それを無視した大雑把で乱暴な行ないを「地方創生」と呼ぶのですから恐いです。小さな日常から出発し、小さなことを積み上げていきたいと思っています。



## 中村桂子の「ちょっと一言」

### 寛容と公共

投稿日：2015.01.20 名前：足立隼

今年のテーマが「寛容」であることには同感です。日本の政治だけでなく、世界の問題の様々なところで、「寛容」があったなら争いにならなかったことが最近頻発しているように思います。トールキンの『ホビットの冒険』『指輪物語』では、古き善きイギリスの田舎人を表象するホビットの一人ビルボが、自分を殺そうとしたゴクリを哀れに思って殺さなかったことが、物語の終盤で主人公のフロドが結局一人ではなし得なかった指輪の破壊を結果的にサポートすることになります。「寛容」がなければ世界は滅びていたということだと思います。そもそもオークという種族もエルフの拷問という「非寛容」から生まれたものです。第二次大戦を経験したトールキンが戦争と平和への思いからこのような設定を差し挟んで行ったことが伺えます。私もイギリスに1年半ほど滞在していましたが、先生の仰るようにイギリスでもトールキンの理想は失われ行くようにも感じました。一方トールキンの世界でも終盤でサルマンがホビット庄に現れて自然を破壊し、内輪で暮っていたホビットたちも中つ国の争いに巻き込まれて行く描写があります。科学者にも「公共」の精神が必要なことが、段々と傾き行く日本の国勢や世界の秩序を見るに付け思います。自分たちの考えを何らかの形ではっきりと発信したり、異なるコミュニティとの対話や社会活動を丁寧にして行くことも大切だと思っています。

## お返事

投稿日：2015.01.21 名前：中村桂子館長

御投稿ありがとうございます。

「寛容」の大切さを共有し、それをホビットの物語を例に語って下さり、なるほどと思いました。そして「公共」という言葉もおっしゃる通りです。私が学んでいた頃の研究室では、常に科学が公共のものとして語られていましたし、先生方はいつも全体を考えていらしたことを思い出します。寛容についてヴォルテールの哲学辞典には、「それは人類の持ち分である。われわれはすべて弱さと過ちから作りあげられているのだ。われわれの愚行をたがいに許しあおう、これが自然の第一の掟である」と書いてあるそうです。さまざまな背景あつての言葉でしょうが、私にはとても素直に受け止められます。また投稿をお願いします。皆で考えたいテーマです。



## 中村桂子の「ちょっと一言」

### 情と理と併せ持ちたる人のみが 不条理感ずる穢土の明け暮れ

投稿日：2015.01.17 ニックネーム：hon no mushi

ご免なさい、もう一つ…

一昨日は、塗装工事用の櫓のような、竹でこしらえたやわい四角い足場を必死で登り、飛び込み板のように長く中空に突き出したのを、胸と顎で一人で押さえている緊迫した夢を、体を硬直させて見て…昨晩は、左手にのどかな田ば、その向こうになだらかな山並み、右手に大河の流れ、という舞台上、丘陵部手前に何やらムクムクと持ち上がるものがあり、おかつぱの童女のような顔つきをした上半身だけのマトリョーシカ風になって、二重三重の着物のかすかにのぞく内側は朱（あけ）色、外側は全部白といった様相で、右手をハッと見ると、ローマの水道橋のようなものが大河の方に途中で沈み込んでいる…という変な夢を見ましたが…引用をもう少し…

…das Ekel! (ekelhaft) …「嫌悪」…私はこの単語を、そのころの自分を取りまいていた狭い外界、血族や級友や教師や、それから漠然と不可解ではあるがしかしどうしても嫌悪の情以外の眼では見ることのできない社会全体に投げつける形容詞として、感傷的な同感をもって受け入れた。私は、そういう自分の傲慢を反省することもなく、寛容は自己への不忠実を証明する悪徳だと思ひこんで恥じなかった。そしてまた一方でこの単語は、自分自身の薄弱な精神と肉体のやり切れなさに絶望する嘆息のためいきとして、より強く、しかしやはり感傷的に私を打っていた…

…私は、自分がどう理屈をつけようと、感覚的には到底この〈厭わしい肉体の崩壊を空想する生理的恐怖と、それに伴って永遠の闇黒世界に消え去って無に帰する自分の意識への執着から生れる恐怖〉にうち克つ見込みのないことを観念している。「諦め切れぬと諦め」ている。結局、私はせめて死をEkelに満ちた自己から脱却し得る手段と考え、いくらかでもそれをバネにして最期の時を迎える他ないのである…

…  
…腎臓も、眼球も、骨髄も、それから血液も、残して役にたつだけのものは、死んだときみな病院に置いて来たので、彼の身は軽かった。

やがて章は、かねて自分が目的としていた場所にたどりついた…

…「章が来たによ」…

…  
…「ええよ、ええよ。どうせわっちらの姿は人にゃあ見えないだでええじゃんか…



## その他

### 持てる力を以て、感動を伝え、また与えられる人になりたい、と改めて思わせられたこと

投稿日：2015.01.16 ニックネーム：hon no mushi

本当に出しゃばりですいません…

今読んでいる藤枝静男さんの『悲しいだけ 欣求浄土』（講談社文芸文庫）は思わぬ自然描写に溢れていて…笙野さんが心酔するのももっともか、と…そこで少し気になる箇所を引用致したく…

…章はこういう（古くて大きい）木を見ていると、時々それが人格（も可ましいが）、それに似た変なものをそなえていて、言語に類するものさえ持っているような気がする。自分が立ち去ったあとで、木が、不明瞭な声を出してブツブツ云うような、かなり実感的な想像が頭に浮かんで、何だか後ろ髪をひかれることがある…

…だいたい章の心のなかには、古い大きな木の方が、なまなかの人間よりよっぽどチャンとした思想を持っている、という考えがある。

厳密な定義は知らぬが、今横行している思想などはただの受け売りの現象解釈で、そのときどきに通用するように案出された理屈にすぎない。現象解釈ならもともと不安定なものに決まっているから、ひとりひとりの頭のなかで変わるのが当然で、それを変節だの転向だのと云って責めるのは馬鹿気なことだと思っている。

皇国思想でも共産主義革命思想でもいいが、それを信じ、それに全身を奪われたところで、現象そのものが変われば心は醒めざるを得ない。敗戦体験と云い安保体験と云う。それに挫折したからといって、見栄か外聞のように何時までもご大層に担ぎまわっているのは見苦しい。そんなものは、個人的に飲みこまれた栄養あるいは毒であって、肉体を肥らせたり痩せさせたりするくらいのもので、精神自体をどうできるものでもない。

章は、ある人の思想というのは、その人が変節や転向をどういう恰好でやったか、やらなかったか、または病苦や肉親の死や飢えをどういう身振りで通過したか、その肉体精神運動の総和だと思っている。そして古い木にはそれが見事に表現されてマジレがないと考えているのである…

…現在、昭和新山の話のところを読んでいます、ふと、高槻辺りに同じような造山運動が起こって、あるいは列島のしわ寄せがそこで盛り上がる形で起こったら…と想像してしまいました。悪しからず…



## 中村桂子の「ちょっと一言」

### 寛容であればこそ癒し

投稿日：2015.01.14 名前：星野順子

時々ふらりと立ち寄る本屋さんで新しい本に出会う楽しみ。

今回の出会いは『ある小さなスズメの記録』でした。表紙のスズメの絵がかわいくて、手に取ってパラパラと本をめくり、読んでみたいと思い買って帰りました。

読んで思ったことは、どんな小さな生き物にも豊かな感性があり意志があり、生を謳歌してしていることを改めて感じたことです。

作者がたびたび書いている「信じてもらえないかもしれないが・・・」という言葉。私は信じられます。

それは、我が家で30年以上飼っているクサガメさん。子供が小学生のころ500円くらいで買った亀さんです。日中は室内で放し飼いしてるので自分の意志で自由に部屋を移動し、呼べば来るし遊んで欲しがると、愛情をかければお互い通じ合うということ実感をしているからです。（私の勝手な思い込みかもしれませんが）

カメのことに関しては石川良輔氏の『うちのカメ』という本に書かれているとおりです。ただ、人間の思いどおりにはいかない生き物たち、私達人間の寛容さがあってのことだと思えます。

今冬眠中の我が家の亀さんですが、春になって目覚め、また私達を癒してくれることでしょう。

## お返事

投稿日：2015.01.15 名前：中村桂子館長

「ある小さなスズメの記録」。すてきな本ですね。クラレンスでしたっけ。他の生きものは言葉を持たないけれど、私たちが言葉で考えたり、表現したりしているのと同じように豊かな気持を表現できるのは確かだと思います。イヌやネコはもちろんですが、小さな生きものも同じで、それらとつき合っていると人間の心も豊かになりますね。カメさんが冬眠から覚めたらよろしくお伝え下さい。

## その他

### 歌を詠むいとまも与えぬ夢うつつ 戯れ連打のフックとアッパー

投稿日：2015.01.14 ニックネーム：hon no mushi

…すいません、ちょっと口数が多くなってしましますが、昨晚…教室の机の上で腕時計を見ていたら、近くの女の子が欲しがって持って行ってしまい、帰ってきたのはバンドと二個のボタン電池だけだった…という夢をみて、それに呼応するような笙野頼子節が目に入ったので報告申し上げます…

…電車に乗っている間中私達の時間は盗まれている…電車の外見がふっと消え後に人肉で出来た蛇のような塊が疾走しているのを見る事が出来る。マラソンの集団をもっと極端にしたようなものが踏切の向こうを、また鉄橋の上を走っている。よく見ると電車ごっこの綱もなく乗客は足の裏から触手を出して、それをお互いに絡めあって全員必死で走っているのである。足の強いものは他人の体重まで背負わされて、足の弱いものは手足をふらふらさせ道の上を傷だらけで引っ張られて……物凄い速度で動く人肉の塊。口からよだれを流し腰から排泄物を滴らせている。その臭いに引かれて音を立てるザリガニが集まって来るのだ。鎧を着た体長一メートル程の、鉄の上にも鉄のカバーを掛けたザリガニである…（『下落合の向こう』より）

…そういえば忍者を扱った漫画の『ナルト』ももう終わってしまい、『ニンジャスレイヤー』という物語も終局をむかえそうなのですが、その中に紫のタコと呼ばれるニンジャが出てきて、あらぬところから出る触手で人の生気を吸い取る場面があってちょっと気持ち悪かったのですが…

もう一つ忘れないうちに…季刊生命誌の付録模型はものすごく面白いと思いますが、家族が最初の、卵を抱く鳥を作ったら子供たちは気に入って、飾ってありますが、作るのが大変で後が続いていないようです…

## その他

### 「善き」者も「悪しき」者も年老いてこの世のならい人の身に沁む

投稿日：2015.01.13 ニックネーム：hon no mushi

昨年から引き続き、今年の抱負を、憚りながら申し上げます。

『不安吐夢・滅相法多宮（ファントム・メソポタミヤ）』というタイトルで一連の投稿を致しましたが、それを今度は物語の形でまとめ上げたら面白いかな、と思いました

…実は昨晚も変な夢をみまして…土鍋を囲むように沢山の人が座敷でワイワイやっており、私はそこでセンター試験のような英語の答案の書き込みに苦戦しているのですが…何かの折に外に抜けだし、潮風の香る断崖絶壁風の城壁の上を渡り歩いていたら、公務員の身なりの女性に手を取られ引き寄せられ…（場面は変わって）…エアーズロックのような巨大な岩の前に幅広の階段が神殿のように続いていて、人々はそこを登ってゆく…そしてそこにも潮の香りが漂っていて…

…滅相というのは、仏教では四相（生・住・異・滅）の一つで、現在の状態がなくなり、過去のものとなること、生命が尽きて肉体の形がなくなること、ということですが、舞台は、大阪と京都の間に何らかの高い壁か岩ができて塞いでしまい、琵琶湖の堰が決壊した後の、洪水後の京都や奈良を想定していて、みやこが滅んでからの何千年か後に語りが始まり、という形で…

語りは二者によって行われ、一方は骸骨、もう一方は幽霊…骸骨の方は男、太平記のような少しゴツゴツとした語り口で、幽霊の方は女、源氏～平家物語のようななめらかな感じの…そして各々が新約聖書のそれぞれの伝記のように語りだし、その当時の現状は生身の人間が補完する形で物語が始まり…相当プレつつ残像を孕みながら進行する…

作家としては、前者の語りで参考にしたいのが笹野頼子さんと、『レストレス・ドリーム』以外あまり読んでおらず、取り敢えず手始めに芥川（?!）賞をとられた時の『タイムスリップ・コンビナート』から、また、藤枝静男さんの本も…。後者の方は松浦理英子さんの、これも『葬儀の日』以来ほぼ20年ぶりなので、『ナチュラル・ウーマン』『セバスチャン』『親指Pの修業時代』から（家族の話では、私はもう既に持っているということだったので、探してもなくて、新たに買い直しを…）



## 中村桂子の「ちょっと一言」

### 「この道しかない」への違和感

投稿日：2015.01.11 ニックネーム：石ちゃん

「この道しかない」という言葉を聞き続けた時期、違和感と怖さを感じました。阪神大震災や東日本大震災など、信じられない規模の自然災害を何度も受けている日本、そして原発事故という取り返しのつかない事故を起こした日本で、「この道しかない」という言葉ほど虚しく響く言葉はありません。私は震災時に、必要最小限のものがあれば足りるということを実体験として学びました。また、人はいざという時、分かちあうという心が出てくるということも経験しました。不安な子供たちに笑顔を与えたのは、全国から送られたたくさんの絵本であったことを、『一冊の本をあなたに』に書かれている末盛千枝子さんたちの活動が教えてくれます。「この道しかない」という言葉に対する違和感・不安感を言い換えれば、息詰まる感じ、行き詰まりの感じと言ったらよいでしょうか。「この道」もやがて行き詰まると思うからです。この社会にはたくさんの道があり、「この道」を行けない人や行きたくない人も多いと思います。耳を澄まして「この道」ではない人たちの、温かな声、励ましの声、小さな声、弱々しい声、誠実な声を聴くことのできる寛容な社会になってほしいと思います。

### お返事

投稿日：2015.01.14 名前：中村桂子館長

「この道しかない」と思い込んだ時、想像力を失ないますね。他の生きものにはない人間だけがもつ能力である「想像力」で、さまざまな立場の人、時には人間以外の生きものの中に入っていくことが豊かな生き方を支えるのだと思うのです。「寛容」は「想像力豊かに」ということでもあると思っています。



## 中村桂子の「ちょっと一言」

### 寛容は世界の宗教情勢からも

投稿日：2015.01.07 ニックネーム：弥勒魁

World Almanac 2015というアメリカの年鑑のp.700に2013年半ばの世界の宗教信者数という表があります。

世界の人口71.3億人に対して何らかの宗教の信者は88.5%の63.13億人だそうです。これに対し9.5%の6.8億人が不可知論者（神は居るとも居ないと断言できないとする人）で2%の1.4億人が無神論者（神はいないと断言する人）なのだそうです。しかも、こういう人々が年々増えているようです。

世界の最大宗教はキリスト教で33%、次がムスリムで23%、3位ヒンドゥー教の14%、4位仏教の7%、5位中国民族宗教（儒教と道教のまじりあったもの？）の6%というところです。

過半数を占める宗教などというものは存在しないのですから、各宗教信者とも、この状況を把握して寛容の精神を発揮してほしいものです。

## お返事

投稿日：2015.01.08 名前：中村桂子館長

私は典型的日本人で、自然の中にさまざまな神様がいらっしゃる、もう少し専門に近く言うなら自然そのものが偉大な存在としてあると受け止めています。絶対があると難しいですね。聖戦のような考え方も出てくるわけですから。しかも絶対が一つでないとなると・・・やはり寛容しかないのではと思うわけです。



## 中村桂子の「ちょっと一言」

### 寛容て大事ですよ

投稿日：2015.01.05 名前：元島愛一郎

寛容で思い出すのは免疫寛容ですね。これがほどほど無いと新しい生命が誕生出来ませんよね。ここの一番大事なポイントを説明できないという口実でうやむやにしてきた人間の傲慢さが、どうも世の中に繁栄している気がします。いのちの本質を生物学者や医療者が目に見えないけど確かに存在するものとして語っていかないと、効率一辺倒の経済が生活を押しつぶして行きますね。そういうなつかしい風が吹く2015年になるように誰もが祈念していると思います。

## お返事

投稿日：2015.01.07 名前：中村桂子館長

寛容ですぐに免疫寛容を思い起こされるとはなんとすばらしい。おっしゃる通りこれは、生きものの生きものらしさ、複雑さ、時にへんてこりんさを感じる現象ですね。このようなところをじっくり考えることでゆとりが生れるとよいのですが。



## その他

### 狂おしい昼の役割、愛おしい夜の役割

投稿日：2015.01.05 ニックネーム：hon no mushi

…先の続きで恐縮ですが…

手塚治虫さんの『ブッダ』も、タッタ、アッサジ…からデイバダッタ、アナンダ…サーリプッタ、モッガラーナ…と色々な登場人物が出てきていよいよ最終章に入るのですが、ブッダが若い時に臨んだアッサジとスジャータの死の間際、苦しみの方こうにみえた生き物たちのつながりの渦…について何度も何度も聞いた話と、「生まれてきた生き物たちには必ずその役目があるのだ」という言葉がふと、私の身に何かしら触発して太鼓のようにリズムを与え、内側から戸を叩くように共振するような答えが返ってきたのでそれを（取り立てて書く程のことでないかもしれませんが）…

…日中は普通の生活をしていて、掃除や買い物や身の回りの日常茶飯事と小銭を稼ぐための仕事や作業を送っている…と日が暮れる…というパターンの毎日なのですが、夜になると眠ってたまに変な夢を見る…のが生きがいかどうか…そこでふと思ったのです。私の夢に限らないでしようが、夢の中で起きる出来事は、ほとんど常に、目的も方向性も持たず支離滅裂で、それは、ブッダの話に出てくる人々や獣たち…生き物たちの境遇にそっくりなのです…今日までは生きていても明日になるとどうなっているかわからない、ただ人間だけがそれを不安として強く感じ、悩み、さいなまれている…ブッダはそれに人間として答えを出した…

…私の場合は、昼間のうちに体を使って新陳代謝を促して栄養を補給する…のは、夜（たまに一連の続きになるくらいの）夢を見る体裁を整えるためでしょうか…

そんな風に思ったのです…昼の忍耐も競争も苦渋もそのためにあるのかな、と…

新年あけましておめでとうございます

投稿日：2015.01.02 ニックネーム：hon no mushi

毎度お世話になっております、ホンのムシです  
 去年はいろいろと…、本年もまた何とぞよろしくお願い致します

ところで、昨年暮れに骨…について投稿しましたが、西川先生の進化研究のお話をつい先程、年始用にとっておいたのを拝見致しまして、ナ〜ンニモ自分は知らなかったんだなあ、と我ながら呆れてしまいました。どうぞご容赦…  
 また、そばに置いてあった『人の心はどこから生まれるのか（生物学からみる心の進化）』（ウェッジ選書、2008年刊）をパラパラめくっていて…血縁選択について、アリやらハチの具体例を出して述べられたチャプターは知らなかったことばかりで…大変心を奪われてしまいました。自分にとって血のつながりの濃い方を優先して守る、という考え方が系統だてられていたのが大変ショックで…

本当はお正月用には手塚治虫さんの『ブッダ』を一つの柱に、と思っていたのですが…そのなかで、ブッダ（シッダルタ）の婚礼の場面に昨日さしかかり、結婚相手が父（スッドーダナ大王）の妹（シャカ族と大変仲のよいコーリヤ族）の子ヤショダラ…と書いてあったので、ものすごく上の血縁の話とダブって映ってしまいました…

でも、何にも知らなかったコト、何にも知らなかったコトとコトとのつながりに、偶然出会えたときの感動は何物にも代えがたいもの…

お返事

投稿日：2015.01.07 名前：中村桂子館長

今年も生命誌から何かを得ていただけるとありがたく思います。  
 よろしく願いいたします。